

「ケースメソッドと フィールドメソッドを 組み合わせた インテンシブ教育」

名古屋商科大学 商学部 学部長 学校法人栗本学園 常務理事
小野 裕二

Contents

1. 事業紹介
2. 進捗報告
3. 期待される効果
4. 課題提起

1. 事業紹介



名古屋商科大学の概要

創立	1935年(大学設立は1953年)
学校種別	私立
ビジネススクールの国際認証	  
大学のミッション	「フロンティア・スピリット」を備えたリーダーの育成
学部の構成	<ul style="list-style-type: none">・商学部(会計学科・マーケティング学科)・経営学部(経営学科・経営情報学科)・経済学部(経済学科・総合政策学科)・国際学部(グローバル教養学科・英語学科)
教育の特長	<ul style="list-style-type: none">・2016年度からケースメソッドを全学的に推進。・2019年度から4学期制を全学的に導入し、ケースメソッドの教育的効果を高めてきた。・2021年2月に商学部が改革構想を打ち立て、インテンシブ事業の採択に至る。

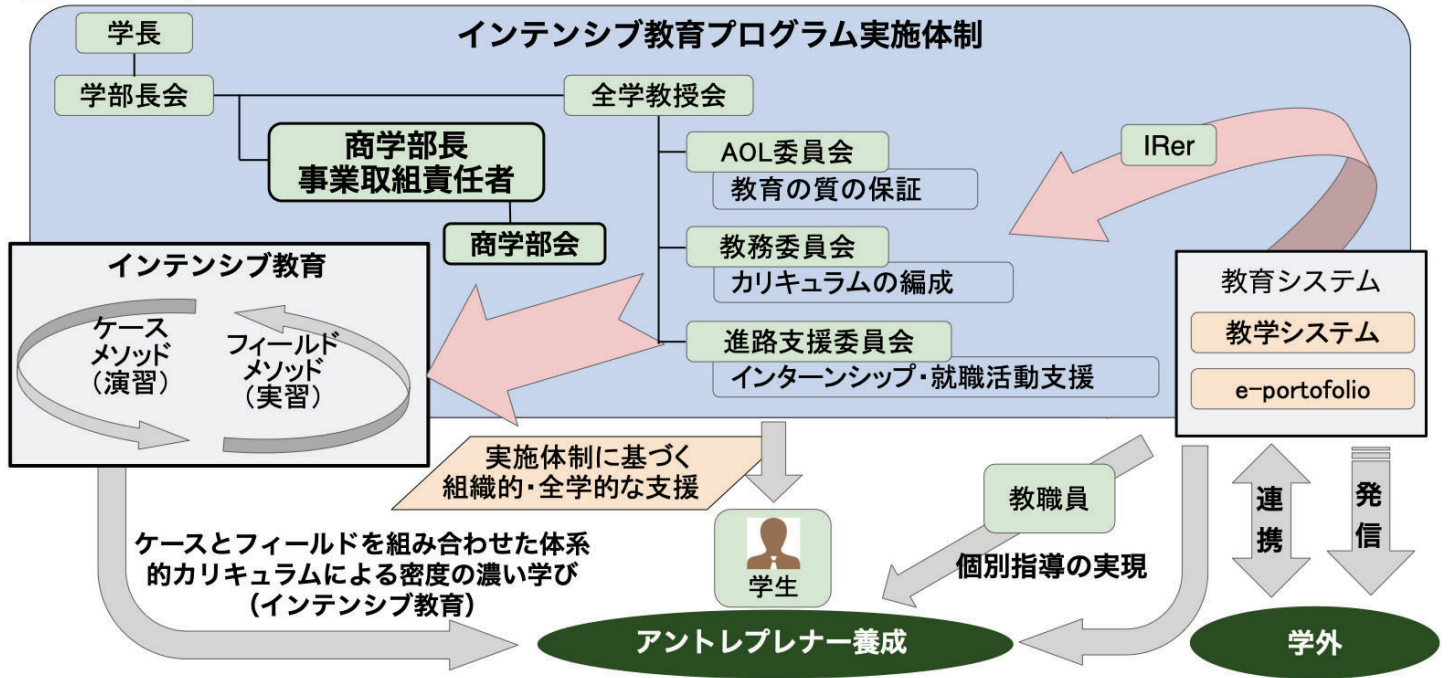


取組名

ケースメソッドを補完するフィールドメソッドを活用した学外連携型の教育システムとアントレプレナーの養成

「ケースメソッド」の効果を高める目的で、「フィールドメソッド」をインテンシブかつ相乗的に組み合わせて教育の両輪として実践し、商学部としての特色を打ち出し、産業界や地域社会に貢献するリーダーを養成する。

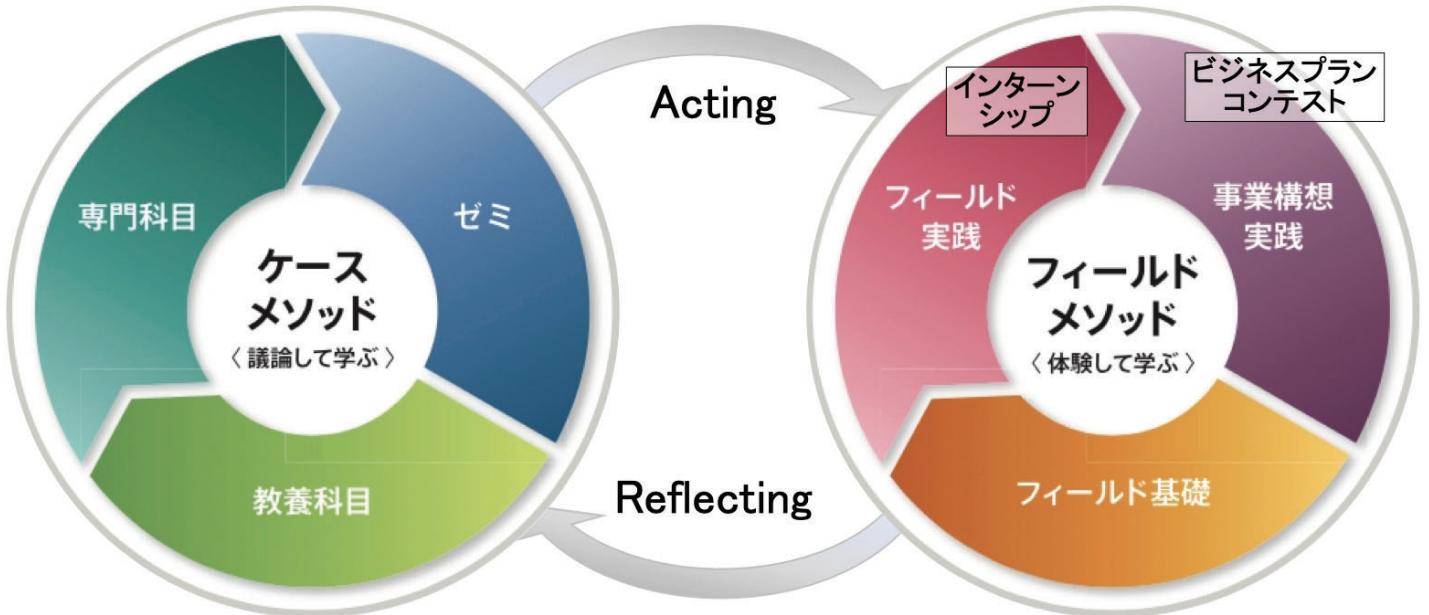
取組概要



取組名

ケースメソッドを補完するフィールドメソッドを活用した学外連携型の教育システムとアントレプレナーの養成

「ケースメソッド」の効果を高める目的で、「フィールドメソッド」をインテンシブかつ相乗的に組み合わせて教育の両輪として実践し、商学部としての特色を打ち出し、産業界や地域社会に貢献するリーダーを養成する。



ケースメソッドの有効性

- ・知識・スキル・態度の修得。
- ・ケースを通じて経営を疑似体験。

フィールドメソッドの有効性

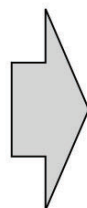
- ・実行した結果のフィードバックを得られる。
- ・実務経験のない学部生に実践の場を提供。
- ・企業や地域社会の課題を解決。

取組名 ケースメソッドを補完するフィールドメソッドを活用した学外連携型の教育システムとアントレプレナーの養成

「ケースメソッド」の効果を高める目的で、「フィールドメソッド」をインテンシブかつ相乗的に組み合わせて教育の両輪として実践し、商学部としての特色を打ち出し、産業界や地域社会に貢献するリーダーを養成する。

従来の時間割

	月	火	水	木	金
1限	経営組織論	組織とリーダーシップ	ゼミ	消費者行動論1	
2限					
3限					コミュニケーションと自己形成
4限					



インテンシブの時間割

	月	火	水	木	金
1限	フィールド実践	コミュニケーションの理論と実践	ゼミ		フィールド実践
2限					
3限	インターンシップ			広告と販売促進	
4限					

2. 進捗報告

ビジネスプランコンテスト



商学部のインターンシップ



3. 期待される効果

インテンシブ教育において期待される効果

- ケースとフィールドの相乗的展開
→MBA流のケースメソッドの徹底＋フィールドでの実務経験
- メリハリあるカリキュラム
→集中的に学ぶ。学修意欲を保つ。学びが定着する。
- 知の集約
→学びの専門化・総合化

4. 課題提起

インテンシブ教育において想定される課題

- **本事業並びに文部科学省の方向性に対する全学的浸透と波及**
 - 教職員全体への浸透
 - インテンシブ教育の他学部への展開, 全学的な波及
- **科目間調整, 担当教員同士の連携, 外部との連携**
 - 授業開講前後の連携・調整が必要
 - 担当教職員の業務負担増・人材獲得
- **学生への働きかけ**
 - 参加学生への意識づけ・動機づけ
 - 目的意識・学習意欲を有する学生の確保(広報への展開)
- **教育効果の検証**
 - フィールドメソッドの教育効果の検証(PDCAサイクル)
 - 既存の学修成果指標との関わり